



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第5巻第
11号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第5巻第11号). 泌尿器科紀要 1959, 5(11): 1182-1182

ISSUE DATE:

1959-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111847>

RIGHT:

編 集 後 記

今年の東部地方会は新潟市に於て高安教授司会の下に行われた。会場は大和百貨店のホールであつたが、設備は極めてよく、食事などの点も便利であつた。定刻9時にきつちり開会せられたのは気持がよかつた。なかなかの盛会で参加者は200~250名と思われた。一般演説の内ですべてに口演せられたのは30題であつたが、いずれも各機関に於ける自信のある出題であるので、立派な内容のものばかりであつた。土屋博士の連続映画供覧があり、特別講演としては高安、楠、市川三教授の、いずれも前立腺癌を中心としたものがあり、それぞれ異つた立場からの研究で、まことに意義深いものであつた。このように一般演説もかなり多くあり、特別講演にも十分な時間が割かれて、学会の運営は見事に行われた。今後は更に円卓会議式の討議をとり入れてはどうかとの話もあつた。

新築の新潟大学病院総合外来を見学したが、泌尿器科はよく整備されていた。然しこれでもまだ広過ぎないとの事である。

学会は以上のように盛大に終つたが、懇親会の豪華なことは目をみはるばかりで、音に聞く新潟美人を一堂に集めてのおけき踊、また郷土の新津松坂踊などに全くたんのうした。観光の佐渡旅行は佐藤助教授リーダーの下に約70名が参加した。佐渡の風物は全くめづらしい。また旅館に出張して実演せられた数々の郷土芸能には思わず嘆息が發せられた。台風15号の予報があつたが、果して帰りの船は欠航である。致し方ないと覚悟した。台風の目の中にはいつたようであつたが、何の被害もなかつた。二泊してゆつくり英気を養つて無事に新潟に帰り、高安教授らに迎えられた。大学医局の方々には全く絶大なお骨折を頂いた。



筆者が旅中に吟詠した数句を記してみよう。往路は北陸線經由の「日本海」号であつた。

一面の芒の山の海に落つ
どこまでも新潟県の芒かな

折角の新潟美人も俳句に詠むのはむずかしかつた。

新潟のなに子なに江や宵の秋

佐渡行き「ゆめじ」丸はかなり揺れた。島は静かなわびしい秋の景色であつた。

海わたり来たりし佐渡も豊年よ
枯れいそぐ九月の佐渡の海辺かな

佐渡は流人の島と云われている。然しその流人は都からの殿上人、高官、高僧などであつたために、哀れな物語と都めいた文化の匂いが残っている。

古き宮古き寺あり佐渡の秋
物語いづれも悲し佐渡の秋

(昭和34年11月)

購 読 要 項

1. 発行は毎月(年12回)とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都 4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投 稿 内 規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. : J. Urol., 45 : 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁 500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部。